

# 厄除祈願

一般に数え年で男性は二十五・四十二・六十一歳、女性は十九・三十三・三十七歳が厄年です。中でも男性の四十二歳、女性の三十三歳は大厄とされ、その前後を前厄・後厄といいます。

心身共に熟年に達し、社会的・家庭的・肉体的な変調や転機の時期であり、重要な節目になることが多いので、これらの歳を災いの多い年とするのは、単なる迷信とも思えません。こうした時、神前に参詣して自ら心を引き締め、誓いと覚悟を新たにすることは非常に意義のあることでしょう。

## 令和2年厄年表(数え年)

男性		女性	
平成8年生	25歳	平成14年生	19歳
昭和55年生	41歳(前厄)	平成元年生	32歳(前厄)
昭和54年生	42歳(本厄)	昭和63年生	33歳(本厄)
昭和53年生	43歳(後厄)	昭和62年生	34歳(後厄)
昭和35年生	61歳(還暦)	昭和59年生	37歳

※当社では節分(二月三日・月)に厄除祈願を行っております。  
**午後九時まで随時受付**  
 尚、当日ご都合の悪い方はお電話にて他の日を御予約下さい。

## おかげさま…

### と、という言葉

「食べ物を粗末にしてはいけませんよ」、子どもの頃、苦手な食べ物を前に、親からそう言われた思い出はありませんか？

太陽などの自然の恵みや、この世に生きとし生けるものの活力を戴いて、私たちは日々の生命を繋いでいます。お米の一粒一粒にも生命が宿っていることを「残さず食べなさい」と言われる



たびに教えられたものです。私たちは、大自然や人と人との関わりの中で、生き、生かされています。何かの折にふと口をついてこんな言葉がでてきます。「おかげさまで」。

そう口にするたび、あらゆる恵みによって生かされているという心を感じ出させてくれるこの感謝の言葉は、私たち日本人が抱いてきた素直な気持ちの現れなのです。

# 町々に「日の丸」を

以前は祝祭日になると、どの軒先でも「日の丸」を掲げておられました。しかし、現在、家々で掲揚されているお宅はめっきり少なくなりました。実に残念なことです。

ある氏子さんは、「うちも、きちんと揚げなあかんけど…」また子供達は、「日の丸の旗って神社とか電車とかしか、付いたらあかんのん？」とかわい質問をされます。

祝祭日は、「旗日」と申しますように、この日は国旗を掲げる日なのです。それは、公共の施設のみならず、各家々でも同様のことです。世界的な大会の時だけ、「日の丸」を見て心揺さぶるのではなく、平素から我々の身近にあるべきものなのです。

青空のもと、風にはためきなびく美しい姿は、慌ただしい日々のなかともすれば忘れかけてしまう太陽への感謝、そして日本の国に住まいするありがたさをふと思ひ起こさせてくれます。

どうぞ、祝祭日には、ご家族揃って軒先に「日の丸」をお掲げになって下さい。そして、お父様・お母様は、お子様方に、この素晴らしく、美しい「日の丸」の意味を話してあげて下さい。



## 国民の祝日には国旗を掲揚しましょう

1月1日 元日	1月第2月曜日 成人の日	2月11日 建国記念の日	2月23日 天皇誕生日	3月21日ごろ 春分の日	4月29日 昭和の日	5月3日 憲法記念日	5月4日 みどりの日
5月5日 こどもの日	7月第3月曜日 海の日	8月11日 山の日	9月第3月曜日 敬老の日	9月23日ごろ 秋分の日	10月第2月曜日 体育の日 (スポーツの日)	11月3日 文化の日	11月23日 勤労感謝の日

国旗・神棚は当社でもお頒ちしております。(国旗一セット 千五百円・神棚 各種)

